



イーヴォ・ポゴレリッチ ©Malcolm Crowthers

池辺晋一郎

原田節 ©Yutaka Hamano

高橋アキ

砂川涼子

## FOCUS

12.17 [土] イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル  
鬼才ポゴレリッチ、23年ぶりに水戸に姿をあらわす！

文 関根哲也

ポゴレリッチのリサイタルでは、必ず「何か」が起こる——よく言われる言葉です。若い頃から現在に至るまで、リサイタルを前にこれほどドキドキ、ワクワクさせてくれる演奏家もあまりいないでしょう。

1993年11月21日、ポゴレリッチは水戸芸術館でリサイタルを行っています。プログラムは、スカルラッティのソナタ（10数曲）、ブラームスのカプリッチョ（作品76の1）、インテルメッツォ（作品118の2）、リストのソナタ。当時、ポゴレリッチは名門レーベルであるドイツ・グラモフォンと長期の契約を交わし、活発なレコーディング活動を行っていました。ディスコグラフィを開くと、このプログラムは、当時の彼のレコーディング活動と密に連動したものとなっていることがわかります。それ故、ライブならではの会場の雰囲気との共振や感情の爆発はあるとしても、すでにリリースされていたCDを聴けば、当時のポゴレリッチの演奏スタイルはある程度予測できたはずで

す。あれから23年。美貌の青年は、スキンヘッドの強面風に外見を変えただけではありません。演奏の中身が大きく変わりました。否、変わったかどうか、実は定かではありません。ポゴレリッチは、ある時期から、一切のレコーディング活動をやめ、テレビ等のメディアにもほとんど姿を見せなくなりました。すなわち、ポゴレリッチの“現実”を知るには、ただリサイタルに足を運ぶしかないのです。

今度のリサイタルも、まったく予断を許しません。ここでは、これまでのポゴレリッチの「事件」を振り返ることに徹し、あとは皆さまそれぞれの心のなかで自由に想像をふくらませていただくことにしたいと思います。

## 事件① 1980年のショパン・コンクール

ポゴレリッチ 22歳の年に迎えた第10回ショパン国際ピアノ・コンクール。すでにイタリアのアレッサンドロ・カサグランデ国際コンクールやカナダのモントリオール国際コンクールで優勝していたポゴレリッチにとって、満を持して臨んだコンクールです。

しかし、その型破りな演奏は、聴衆を熱狂の渦に巻き込む一方で、審査員を混乱の渦に巻き込むことにもなりました。賛否両論飛び交う中、結局セミ・ファイナル（第3次予選）で落選。（型破りなのは演奏だけではなくたようです。他の参加者が格式あるコンクールの雰囲気と合わせ、蝶ネクタイにスーツなどフォーマルな服装で演奏していたのに対し、ポゴレリッチはシャツにジーンズというラフな格好だったようです。）

審査員を務めていたピアニスト、マルタ・アルゲリッチはポゴレリッチの落選に激怒。「だって彼は天才よ！」という強烈な一言を残し、審査員を辞任、帰国してしまいました。さらに、ポゴレリッチの演奏を支持していた聴衆からも、激しい抗議運動が起こりました。対応を迫られた審査委員会は急遽、「特別賞」をポゴレリッチに贈ることを決定します。

ポゴレリッチは落選により、その年のコンクール優勝者（ダン・タイ・ソン）が霞んでしまうほどの「名声」を手に入れました。直後より、ドイツ・グラモフォンから続々とCDをリリースするほか、世界中でリサイタルを開催し、エキセントリックとも言える演奏で至るところ満場の聴衆を熱狂させます。

## 事件② 帝王カラヤンとの決裂！

アンネ・ゾフィー・ムター、エフゲニー・キーシン、キャスリーン・バトル……。クラシック音楽界に君臨してきた指揮者ヘルベルト・フォン・カラヤンは、特に晩年、才能豊かな若い演奏家の支援に積極的でした。ポゴレリッチも、当然、カラヤンの目に留まります。

1984年、演奏会とレコーディングの実施を前提に、ポゴレリッチとカラヤンは「初顔合わせ」を果たします（曲はチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番、オーケストラはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団）。

しかし、結果は惨憺たるものでした。テンポも、曲の解釈も、「帝王」カラヤンの音楽はポゴレリッチにはまったく合わず、結局、互いの意地の張り合いのようなひどい演奏に終わったということです。無論、共演はキャンセル。カラヤン曰く「君がこんなやり方でやって行くのなら、別の指揮者を探すことだ」。

そんなポゴレリッチとの共演を受け入れ、事態を救ったのは、“我らがマエストロ”小澤征爾や“合わせ上手”な指揮者としても知られるクラウディオ・アバ

ドでした。ちなみに、チャイコフスキーのピアノ協奏曲は、アバド指揮ロンドン交響楽団とレコーディングされますが、そのジャケットにはポゴレリッチ一人の写りが使われています。協奏曲のジャケットにおいてアバドが顔を出さないのは極めて異例なことと言えますが、その真意は・・・。

### 事件③ 妻アリスの死

際立った成績を残すスポーツ選手の陰に優れたコーチがいるように、“天才”と呼ばれる演奏家の背後にもかならず優れた指導者がいます。ポゴレリッチの師は、彼が18歳の時(1976年)出会ったグルジアのピアニストであり、指導者でもあったアリス・ケゼラーゼ(当時32歳)です。

アリス・ケゼラーゼの指導により、ポゴレリッチは飛躍的に才能を開花させますが、教えを受け始めて1年後には、何と結婚を申し込みます。既に夫も息子もいたアリスは、最初は申し出を拒んだものの、ポゴレリッチの何をも怖れぬ情熱についに翻意。先述のショパン・コンクール(1980年)に結婚します。

ポゴレリッチがその後、名声を手にしたから、アリスは必ず彼の傍らにいました。まさに最高の師であり、最高の妻であったのです。

そのアリスが1996年に死去すると、ポゴレリッチは精神的危機に見舞われ、予定されていたリサイタルはすべてキャ

ンセル。重度の神経症を患い、一時は再起不能との噂まで流れました。演奏活動を再開するまで、数年の療養を要します。

### 事件④ 最近の来日公演

療養後のポゴレリッチがひさびさに日本の聴衆の前に姿を現したのは2005年のこと。そのリサイタルは、まさに衝撃的でした。まったく音楽が流れません。聴き慣れたはずのショパンのソナタ(第3番)が、常軌を逸した遅いテンポにより解体され尽くした感がありました。ちぎれちぎれに分断された旋律、突然強調される和声、グロテスクに歪むリズム、楽器の破壊さえ心配になるほどの強烈な、しかし極限的に美しい打鍵・・・。

「ポゴレリッチは壊れてしまった」というような負の感想を語る人もいましたが、私も含め、ある一定の割合の聴衆は「この“解体”から何かが生まれる」という期待とともにリサイタルの会場を後にしたことを思い出します。

その後、ポゴレリッチは、2007年、2010年、2012年、2013年、2014年と頻繁に来日。その都度、大きな話題となり、その演奏は「事件」として語り継がれています。

直近の2014年の来日公演(東京でただ1回のみ)の公演プログラムは、リスト〈ダンテを読んで〉、シューマン〈幻想曲〉、ストラヴィンスキー〈ペトルーシュカからの3楽章〉、ブラームス〈パガニーニの主題による変奏曲〉と

いうもの。2010年あたりがピークであった極端に遅いテンポは、常識的な範囲に戻った感がありましたが、それによってかえって演奏が「普通ではない」ことがはっきりしたとも言えます。

そのあたりのことについて、浅田彰氏が『ポゴレリッチと「時間の廃墟」』と題し、鋭く論じています(<http://realkyoto.jp/blog/pogorelic/>)。どうぞ“常識”という厚い衣を脱ぎ捨て、リサイタルにいらしてください。

### <校了間際の注目ニュース!>

ポゴレリッチが1998年以来となる久々のレコーディングを発表します。収録曲はベートーヴェンのソナタ第22番と第24番(渋い!)。バルリンを拠点とするクラシック音楽配信サイトIdagio(<http://idagio.io/pogorelich>)とIdagioのiOSアプリ限定で11月2日より配信されます。お楽しみに!

### イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル

12/17(土) 15:30開場 16:00開演

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM  
全席指定 一般7,000円  
ユース(25歳以下)2,000円

曲目  
ショパン：バラード第2番 へ長調 作品38  
ショパン：スケルツォ第3番 嬰八短調 作品39  
シューマン：ウィーンの謝肉祭の道化 作品26  
モーツァルト：幻想曲 八短調 K.475  
ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 作品36(1931年改訂版)

## 12.3 市内小中学校 水戸芸術館コンサート

### 第21回 クリスマス・コンサート

文 中村 晃

毎年12月に水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を発表する「クリスマス・コンサート」。これまで20年間コンサートを支えてくださったアートタワーみとスターライトファンタジー実行委員会の方々の想いを受け継ぎ、この公演を続けていきたいと思えます。今年は、水戸室内管弦楽団の楽団員代表でホルン奏者の猶井正幸さんがコンサートの講評を行います。



#### 参加校

[午前の部]

柳河小(器楽合奏)、五軒小(合唱)、双葉台中(吹奏楽)、緑岡中(吹奏楽)、五軒小(吹奏楽)、第一中(吹奏楽)、見川中(吹奏楽)、常澄中(吹奏楽)、渡里小(金管合奏)、第四中(吹奏楽)、内原小(器楽合奏)、赤塚小(金管合奏)、第五中・内原中合同(吹奏楽)

[午後の部]

堀原小(合唱)、茨城大学附属小(合唱)、茨城大学附属中(合唱)、堀原小(金管合奏)、石川中(吹奏楽)、三の丸小(吹

奏楽)、第三中(吹奏楽)、双葉台小(金管合奏)、赤塚中(吹奏楽)、常磐小(吹奏楽)、酒門小(金管合奏)、茨城大学附属中(吹奏楽)、千波中(吹奏楽)

### 市内小中学校 水戸芸術館コンサート 第21回 クリスマス・コンサート

12/3(土) 午前の部 9:45開演(9:30開場)  
午後の部 14:30開演(14:15開場)

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM  
入場無料

後援：水戸市教育委員会

\*当館の「年間スケジュール」、「秋・冬スケジュール」にて、12月4日(日)と告知しておりますが、12月3日(土)の開催に変更させていただきます。

## 12.23 金・祝 クリスマス・プレゼント・コンサート 2016 (企画・司会：池辺晋一郎)

## クリスマス・ソングも、クラシックの名曲も、珍しい楽器も、ビートルズも！

文 篠田大基

水戸芸術館で毎年12月23日に開催している「クリスマス・プレゼント・コンサート」は、開館以来続いている恒例のコンサート。今年も水戸出身で日本を代表する作曲家の池辺晋一郎さんによる企画と司会でお贈りいたします。

今年のコンサートの打ち合わせのなかで、池辺さんから最初にこんな提案がありました。

「クリスマスといえば誰もが知っているような聖歌を、聴き応えのある合唱編曲で演奏できないかな？」

クリスマス・ソングのなかには、何百年も教会で歌われてきた「キャロル」と呼ばれる聖歌でありながら、日本では聖歌と認識されていないくらいにポピュラーになって、多くの人に愛唱される曲が沢山あります。〈ひいらぎ飾ろう Deck the Halls〉や〈おめでとうクリスマス We Wish You a Merry Christmas〉などは、キャロルのなかでも広く世界中で親しまれている歌でしょう。今回はこれらの名曲を、キャロルの本場イギリスで長く聖歌隊に関わり続けた合唱音楽の作曲家たち——デイヴィッド・ウィルクックス、ジョン・ラター、ボブ・チルクット——が手掛けた美しい編曲でお聴きいただけます。歌うのは、合唱コンクールで優秀な成績を収め、ウィーンやローマなど海外公演も行っている茨城県立水戸第二高等学校コーラス部の皆さん。清澄な歌声はクリスマスの気分を盛り上げてくれることでしょう。

クリスマス・ソングはクリスマスのコンサートに欠かせませんが、水戸芸術館の「クリスマス・プレゼント・コンサート」の特色はそれだけではありません。クラシック界で日本を代表する豪華な出演者たちによる多彩なステージもご好評をいただいています。

今回のコンサートにいらっしゃるお客様は、最初にコンサートホールに入ったとき、ステージに置かれている楽器に、きっと目を奪われるはず。美しい形をしたその楽器は、「オンド・マルトノ」。20世紀前半にフランスの電気技師でチェロ奏者でもあったモーリス・マルトノが発明した電波楽器です。今回のコ

ンサートは、オンド・マルトノ演奏の第一人者である原田節さんのステージで幕を開けます。オンド・マルトノは、電気式の楽器ではあっても、シンセサイザーや電子キーボードとは大きく違い、鍵盤を弾いて音を出すだけでなく、鍵盤の手前に張られた弦（リボン）に指を滑らせる奏法があったり、さまざまな音響効果を生み出すスピーカーを使い分けて音の表情を変えたりと、とてもユニークな特徴をもった楽器です。今回は、バッハのヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタやシューベルトのアルペジオーネ・ソナタのように、現代ではチェロで演奏されることも多い作品を取り上げ、それをオンド・マルトノでお楽しみいただけます。チェロを弾いていたモーリス・マルトノは、きっと電気を使ってこんな音を奏でたかったのではないかと想像が膨らむ曲目です。

原田さんと共演してくださるのは、ピアニストの高橋アキさん。水戸芸術館では1995年に池辺さんの企画で開催した「現代音楽を楽しもうX」以来のコラレーションとなります。

高橋アキさんは昨年9月に水戸芸術館で、落語家の柳家花緑さんの朗読とともにプーランクの〈ぞうのババール〉を上演してくださいました（来年3月に再演の予定ですのでお楽しみに！）。このときは、朗読とピアノ演奏を組み合わせたコンサートでしたが、今回の「クリスマス・プレゼント・コンサート」では、高橋さんはソロ演奏もご披露くださることになりました。

まずは今年生誕150年を迎えたサティの人気作〈ジムノペディ 第1番〉と〈ジュ・トゥ・ヴ〉の2曲。長年にわたってサティを深く探究してきた高橋さんの演奏は、シンプルな旋律線や和音から深遠な世界の広がりが見えてくるようで、感銘を覚えずにはられません。続いては、ビートルズのヒット曲が並びます。でも一味もふた味も違ったビートルズなのです。高橋さんにとって、サティと並ぶライフワークとなっているのが、現代作曲家たちにビートルズ・ナンバーの編曲を委嘱するプロジェクト「ハイパー・ビートルズ」。今回はこのプロジェクトから生まれた選りすぐりの作品をお贈りします。このコンサートの企画者である

池辺さんによる〈ハイ・ジュード〉の編曲をはじめとして、「あの曲がこんなふうに!？」と驚かされること請け合いです。

さて、「クリスマス・プレゼント・コンサート」で忘れてはいけないのが歌のステージです。毎年、日本でトップクラスの歌手たちがご出演くださり、お客様のなかにも、歌のステージを楽しみにしていらっしゃる方も多いようです。今年は日本のオペラ界で人気、実力ともに指折りのソプラノ歌手、砂川涼子さんが、モーツァルトの古典歌曲から〈ユー・レイズ・ミー・アップ〉のようなポピュラー曲、そしてオペラ・アリアの名曲を歌い上げます。クリスマスの街を舞台にした有名なオペラにブッチーニの《ラ・ボエーム》があります（「クリスマス・プレゼント・コンサート」でも過去に抜粋上演されたことがあります）。このオペラのヒロインのミミは砂川さんの当たり役で、「理想のミミ」と絶賛を浴びてきました。今回の砂川さんのステージで歌われる《ラ・ボエーム》の有名なアリア〈私の名はミミ〉は、まさに注目の1曲です。

おなじみのクリスマス・ソングやクラシックの名曲から、たとえ知らなくても聴いたらきっと面白いと思っていただける曲まで、さまざまな音楽をお届けする「クリスマス・プレゼント・コンサート」。恒例のプレゼント・コーナーやエントランスホールで行うミニコンサートもごぞいます。聖夜の楽しいひとときを、ぜひ水戸芸術館でお過ごしください。

## クリスマス・プレゼント・コンサート 2016

12/23 (金・祝) 17:00 開演 (16:30 開場)

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM

全席指定 一般 ¥3,500

ユース (25歳以下) ¥1,000 円

企画・司会 池辺晋一郎

出演 原田 節 (オンド・マルトノ)、高橋アキ (ピアノ)、砂川涼子 (ソプラノ)、江澤隆行 (ピアノ)、寺門芳子 (指揮)、茨城県立水戸第二高等学校コーラス部 (合唱) ほか

\*開場前と終演後にエントランスホールでミニコンサートを開催します (開演前: 茨城県立水戸第二高等学校コーラス部 (ハンドベル) / 終演後: 茨城県立水戸第二高等学校コーラス部 (合唱)、寺門芳子 (指揮)、小野田未奈 (オルガン))。

## 12.11 日 水戸の街に響け！ 300人の《第九》2016

### 全国的にも珍しい野外の《第九》コンサート、今年も水戸芸術館で

文 篠田大基

年末に聴くクラシックといえば、ベートーヴェンの交響曲第9番。「歓喜の歌」で有名な、通称《第九》です。12月になると全国各地で《第九》のコンサートが開かれますが、水戸の《第九》といえば、水戸芸術館で毎年開催している「水戸の街に響け！ 300人の《第九》」。おかげさまで水戸の師走の風物詩として定着し、毎年のべ3千人以上のお客様が水戸芸術館に聴きにいらしてください。

この「水戸の街に響け！ 300人の《第九》」の特色は、全国でも珍しい野外コンサートだという点です。12月の寒いさなかに「広場で《第九》を歌おう！」と、このコンサートを企画した故・畑中良輔先生（元・水戸芸術館音楽部門芸術総監督）は、アイデアにあふれる方だったなあ——そんなことを12月を迎えるたびに思います。しかし、この野外での《第九》コンサートというユニークな発想にもまして、さら

にすごいのは、合唱に参加する方々とお客様に支えられ、このコンサートが15回も続いてきたこと。そして、公募で集まる合唱参加者の人数は年々増加の傾向にあり、毎年継続して参加してくださる方がとても多いという事実です！

16回目となる今年の《第九》は全体で400人を超える大合唱団になる見込みです。下は4歳から上は91歳まで、実に幅広い参加者が水戸芸術館に集まって練習に取り組んでいます。《第九》は決して簡単な歌ではありません。自分のパートを全部暗譜で歌える方もいらっしゃいますが、「今年はこの部分を歌えるようにしたい」と、個人目標を立てて練習に励む方もいらっしゃいます。

9月から始まった合唱練習もいよいよ佳境に入りました。本番の指揮をとる打越孝裕先生をはじめ、茨城県合唱連盟の先生方の指導にも熱が入っています。その

練習の成果が12月11日、水戸芸術館の広場で披露されます。茨城県ゆかりの演奏家を中心とした実力派の独唱者陣、ピアノ2台とエレクトーン2台、それにティンパニを加えた迫力のサウンドも、ぜひお楽しみください。

#### 水戸の街に響け！ 300人の《第九》2016

12/11 (日) 12:00 開演 / 13:30 開演

会場 水戸芸術館 広場  
(悪天候の場合、コンサートホール ATM)

入場無料

企画 畑中良輔

指揮 打越孝裕

独唱 結城滋子 (ソプラノ)、山本彩子 (アルト)、

小貫岩夫 (テノール)、清水良一 (バリトン)

器楽 小林由佳、八谷奈津美 (エレクトーン)、

中村真由美、中村佳代 (ピアノ)、

山地章子 (ティンパニ)

合唱 一般公募による参加者、茨城県合唱連盟、

水戸市合唱連盟

曲目 ベートーヴェン：交響曲第9番 二短調

作品125より 第4楽章

## 12.24 土・祝 パイプオルガン・プロムナード・コンサート Xmas スペシャル

### 今年のクリスマス・イヴはなんと！夜にプロムナードを初開催！

文 高巢真樹

普段のパイプオルガン・プロムナード・コンサートは、賑やかな午後にお楽しみいただいておりますが、今年のクリスマス・イヴは、この企画が始まって以来初となる、夜の開催です（18時開演）！夕闇に包まれた静かなひととき、華やかな照明演出とともに、オルガンとソプラノの美しい調べを楽しみませんか？

プログラムは〈ノエル〉（ダカン作曲）などオルガン独奏のほか、ソプラノとの共演で〈アヴェ・マリア〉（J.S. バッハ / グノー作曲）や〈ホワイトクリスマス〉（バーリン作曲）、そして最後には〈ラブソディ・イン・ブルー〉が演奏されるな

ど、まさに聖なる夜を華やかに彩る内容です。

出演は、つくば出身のオルガニスト・中田恵子さん。2013年第11回アンドレ・マルシャル国際オルガンコンクール優勝者で、当館では「幼児のためのオルガン見学会」講師として人気を博しているほか、来年度の「茨城の演奏家による演奏会企画」開催が決まるなど、いま注目されるオルガニストです。ソプラノは栗林瑛利子さん。イタリアで研鑽を積み、帰国後は、小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトのラヴェル〈子どもと魔法〉に出演するなど、各地で活躍中です。

今年最後に水戸芸術館がお贈りする、目でも耳でも楽しめるコンサート。入場無料です。ぜひお気軽にお越しください！



中田恵子

栗林瑛利子

2016.10.2

#### Duo la Bilancia ピアノ・デュオ・リサイタル

ピアニストの長澤順さんと清水美和さんによるユニット Duo la Bilancia (デュオ・ラ・ビランチャ) のリサイタルは、後半が2台ピアノと打楽器のアンサンブルでの演奏になるところが特徴的です。今回、打楽器との共演に選ばれた曲は、サン＝サーンスの〈死の舞踏〉とチャイコフスキーの組曲〈くるみ割り人形〉。打楽器は水戸の街に響け！ 300人の《第九》にもご出演の山地章子さんが担当しました。リサイタル前半でビゼーとグアスタビーノの作品が華やかに奏でられた後、打楽器が加わった後半では、音楽は

さらに色彩感を増して躍動していました。アンコールには山地さんをソリストにモンティの〈チャールダーシュ〉が演奏され、締めくくりには2台ピアノで、菅野よう子〈花は咲く〉がしっかりと奏でられました。《篠田》アンケートから■〈くるみ割り人形〉では、バレエのシーンが目に浮かびました。選曲が大変よかったです。(茨城県内の方) ■ピアノ・デュオは、ソロよりも音の表現の幅が広がり、奥行きがあります。お二人の息の合った演奏にはいつも魅かれます。(ひたちなか市の方)

#### 最近の公演から



1 : Duo la Bilancia ピアノ・デュオ・リサイタル

2016.10.9

### イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト

ヨーロッパの楽壇を席卷するアーティストふたりによるみずみずしいデュオ。室内楽の殿堂とも呼ばれるロンドンのウィグモア・ホールでのコンサートを成功させ、さらに今回のプログラムの主軸となっていたバッハの〈ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集〉をレコーディングしたばかりということで、実に完成度の高い演奏が披露された。バッハのデュオ・ソナタ3曲の間に挟まれたフローベルガーのチェンバロ曲とビーバーのヴァイオリン曲も格調高い演奏で、プログラムに彩りと深みを与えていた。アンコールは、バッハのソナタ〈第1番〉BWV1014から第3楽章、そして第1楽章。《関根》アンケートから■美しい音色と高い演奏技術、すばらしいの一語に尽きます。当代一流の演奏者として世評が高いのもうなずけます。バロック音楽の厳粛さだけでなくユーモラスなところも味わうことができ楽しめる内容でした。(水戸市:T.M.さん) ■お二人の息がピッタリで、テンポをゆらしたり速くしたりも自由自在。聴いていて、とても心地よいサウンドだったと思います。また、ヴァイオリンの音がとてもやわらかで、バロックの雰囲気合っていると思いました。(水戸市:T.N.さん) ■チェンバロが大好きで来ました。自由な表現でとてもすばらしかった。ヴァイオリンの音色の多様さと豊かさにも感動しました。(水戸市:無記名の方)

2016.10.10

### 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

茨城県と連携して開催する公開レッスン。今回は、四戸世紀さん(クラリネット)、猶井正幸さん(ホルン)、竹島悟史さん(打楽器)、猶井悠樹さん(ヴァイオリン)が、茨城県立水戸第三高等学校吹奏楽部を指導。講習曲には、レスピーギのオーケストラ作品の吹奏楽編曲版が選ばれ、レッスンの中では、猶井悠樹さんが原曲の弦楽器の奏法や音のニュアンスを実演も交えて解説し、その響きを管楽器でどのように再現するのかなどが、指導されました。講師によるミニコンサートでは、竹島悟史さんが珍しいシンバル独奏曲や自作のマリンバ独奏曲を披露したほか、他の講師のピアノ伴奏も務めて、多才ぶりを発揮。短いながらも充実した内容のコンサートになりました。《篠田》アンケートから■吹奏楽の指導を学びたくて来ました。他の曲でもどこをポイントに見ていけばよいのか学ぶことができました。(水戸市の方) ■最初は鋭かった生徒たちの音が、レッスンを通してだんだんとやわらかくなっていくことに快感を覚えました。とてもよい勉強になりました。(東京都:C.A.さん)

2016.10.16

### 第54回 あひる会合唱団定期演奏会

水戸で着実な歩み続ける混声合唱団、あひる会合唱団の第54回定期演奏会が開催された。今回はルネサンス時代の多声音楽に造詣が深い渡辺三郎氏がスペシャルステージでビクトリアのモテットなどを指揮。第1ステージは打越孝裕氏の指揮で〈表参道高校合唱部!オリジナル混声合唱曲集〉より(ピアノ:橘知里氏)、第2ステージは後藤敦子氏の指揮で高田三郎〈心の四季〉より(ピアノ:近森紀江氏)、第3ステージは打越孝裕氏の指揮でフォーレ〈レクイエム〉(ソプラノ:結城滋子氏、バリトン:清水良一氏、エレクトーン:小林由佳氏、八谷奈津美氏)が演奏された。アンコールは、モーツァルト〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉(打越氏指揮)、渡辺三郎〈遠くへ〉(渡辺氏指揮)。《関根》アンケートから■とても良かったと思います。楽しいひと時を過ごすことができました。(水戸市の方) ■ハーモニーがやわらかできれいです。人数が多くてうらやましい!ご盛會おめでとうございました!(東京都の方)

2016.10.29, 30

### 水戸室内管弦楽団 第97回定期演奏会

2016.10.28

### 水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会

近年指揮活動に情熱を注いでいるナタリー・シュトゥッツマンが、約2年半ぶりに水戸室内管弦楽団を指揮した。プログラムは、モーツァルト〈交響曲第25番〉、プロコフィエフ〈古典交響曲〉、ピゼー〈交響曲〉という交響曲ばかりの3曲。4日間にわたるリハーサルで、シュトゥッツマンは踊るような身振りりと、うっとりさせられる美しい“歌”でオーケストラのメンバーに自らの意図を十全に伝え、かつメンバーの自発性も存分に引き出していた。18、19、20世紀の交響曲を一晩に演奏することにより、「音楽の進化とともに、世紀を越えてつながっている関係性を明らかにしたい」という指揮者のねらいは、高い完成度で達成されたのではないだろうか。

10月28日には青柳公園市民体育館で「子どものための音楽会」を開催。水戸市内の小学5年生を中心に約2500名の子どもたちがオーケストラの生演奏を楽しんだ。《関根》アンケートから■最高の演奏でした。指揮者とオケがまさに一体となって素晴らしい演奏をやったと思います。とても大きなフレーズの音楽を作り上げていて、モーツァルト等は他のオケの演奏とは全く違う、新しい世界を見せてくれたと思います。加えて、皆様の演奏技術の高さ!(水戸市:T.N.さん) ■3つのSymphonyすばらしかった。ホールにぴったりの曲だったように思います。(銚田市:A.O.さん) ■すべて良かったです、特にプロコフィエフとピゼーが素晴らしかったです!キラキラしていました。人生讃歌ですね。(東京都の方) ■プログラムが興味深かった。確かに、このように交響曲のみ3曲を聴くことはめったにないが、こうして聴いてみると、とてもよく意図が見えて納得する。しかし、このオケはスゴイですね!(東京都:H.U.さん)



2: イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト  
3-4: 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート  
5: 第54回 あひる会合唱団定期演奏会  
6-7: 水戸室内管弦楽団 第97回定期演奏会  
8: 水戸室内管弦楽団 子どものための音楽会

## チケット・インフォメーション

### 《11月26日(土)発売分》

#### ■サイトウ・キネン・オーケストラ プラス・アンサンブル

2017年1/22(日) 14:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥3,500 /ユース (25歳以下) ¥1,000

#### ■ちょっとお昼にクラシック トリオ・インク ～世界中に広がる音楽～

2017年2/10(金) 13:30 開演

料金 [全席指定] ¥1,500 (1ドリンク付き)

#### ■合唱セミナー 2017 (講師:清水敬一)

2017年2/12(日) 10:00 開始 (16:00 終了予定)

参加費 [全席自由] 一般 ¥1,000 /高校生 ¥500 /中学生以下 ¥300

※別途、楽譜代が必要です。

## これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20席以上) △…残席わずか (20席未満) ×…残席なし  
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

#### ◎城戸春子 チェロ・リサイタル

……………11/20(日) 自由席○

#### ◎永田絵里子 ピアノ・リサイタル

……………11/23(水・祝) 自由席○

#### ◎SUGADAIRO PROJECT vol.1 「狂演」 スガダイロー x 山下洋輔 (ピアノ)

……………11/26(土) 中央△、左右・裏○

#### ◎イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル

……………12/17(土) 中央×、左右・裏○

#### ◎クリスマス・プレゼント・コンサート 2016

……………12/23(金・祝) 中央△、左右○

#### ◎水戸市民吹奏楽団 第39回定期演奏会

……………2017年1/21(土) 自由席○

#### ◎SUGADAIRO PROJECT vol.2 「秘境/魔境」

スガダイロー x 田中混(ダンス)、近藤岳(パイプオルガン)、有馬純寿(エレクトロニクス)  
……………2017年1/28(土) 1F×、2F△、3F○ (ACM劇場)

#### ◎兼氏規雄 クラリネット・リサイタル

……………2017年2/5(日) 自由席○

※11/2(水) 現在の状況です。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館の主な12月のスケジュール

### コンサートホール ATM

#### ■市内小中学校 水戸芸術館コンサート

12/3(土) 時間未定 入場無料 [全席自由]

#### ■水戸の街に響け! 300人の《第九》2016

12/11(日) 1回目 12:00 開演 / 2回目 13:30 開演

入場無料 [会場: 広場] ※雨天時はコンサートホール ATM

#### ■イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル

12/17(土) 16:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥7,000 /ユース (25歳以下) ¥2,000

#### ■クリスマス・プレゼント・コンサート 2016

12/23(金・祝) 17:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥3,500 /ユース (25歳以下) ¥1,000

### エントランスホール

#### ■パイプオルガン プロムナード・コンサート (入場無料)

□12/4(日) 金子雄太 12:00 ~ / 13:30 ~ (各回 30分程度)

□12/10(土) 内田光音 12:00 ~ (30分程度)

□12/24(土) 《クリスマス・スペシャル》

中田恵子、栗林瑛利子 (ソプラノ) 18:00 ~ (45分程度)

### 現代美術ギャラリー

#### ■「クリストとジャンヌ=クロード アンブレラ 日本=アメリカ合衆国 1984-91」展

10/1(土) ~ 12/4(日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は17:30まで

[休館日] 月曜日

[入場料] 一般 ¥800 /前売り・団体 (20名以上) ¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

#### ■「石川直樹 この星の光の地図を写す」展

12/17(土) ~ 2017年2/26(日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は17:30まで

[休館日] 月曜日、年末年始 12/26(月) ~ 2017年1/3(火)

※ただし、1/9(月・祝) は開館、翌1/10(火) 休館

[入場料] 一般 ¥800 /前売り・団体 (20名以上) ¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

### 茨城の主な12月の演奏会

#### ■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・谷昂登 ピアノ・リサイタル 12/10(土) 18:00 開演

#### ■ひたちなか市文化会館(小ホール) TEL / 029(275)1122

・《3才からのコンサート体験》おやこ de クラシック vol.10

10th Anniversary コンサート 仲道郁代 「不思議ボール」

12/23(金・祝) 13:30 開演

#### ■日立シビックセンター(多用途ホール) TEL / 0294(24)7720

・日立シビックセンター市民音楽企画 2016

ピアノの歴史II フォルテピアノ編 12/4(日) 14:00 開演

#### ■ノバホール TEL / 029(852)5881

・第11回 つくばで第九 12/29(木) 15:00 開演

### チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間: 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)

### 公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場



@ConcertHall\_ATM @art\_tower\_mito



[www.facebook.com/arttowermito](http://www.facebook.com/arttowermito)

## 編集後記

県北芸術祭。あの海岸に、あんなに大勢の人が訪れているなんて…地区の住民としては、魅力再発見の機会になっています。ところで、以前の疑問。パソコン等で「けんぼく」と入力しても、変換できないのはなぜ? (り)

Googleの翻訳アプリをDLしたら、その便利さに驚きました。カメラで撮影した文章の翻訳をすることができ、まさに「こういうのが欲しかった」という気持ちです。おかげで友人から買った外国製の紅茶が無事に淹れられそうです。(峠)

水戸室内管弦楽団のリハーサルの合間に、チェロの宮田大さんに、3月3日に開催する水戸芸術館リサイタルについてインタビューさせていただきました。濃密な内容ですよ。[vivo] やブログへの掲載をお楽しみに! (篠)

1か月に1キロずつ、半年で6キロの減量に成功した。走るのがいくらか軽快になり、かがむのがラクになり、締まらなかったスーツの前ボタンが締まるようになった。リバウンドせぬよう、以後気をつけます! (て)

大子にて県北芸術祭が開催されている。たカレーキャラバンに遭遇。しかも、こんにゃく、りんご、むかご…普段入れないような食材が入ったカレーを頂いたところ、意外にも絶妙なハーモニー! カレーの包容力、恐るべし。(樹)

今年には武満徹氏の没後20年で、多くの作品が演奏されている。今年の吉田秀和賞は、立花隆氏の『武満徹・音楽創造への旅』が受賞された。その吉田賞の第1回受賞者で音楽評論家の秋山邦晴氏もご逝去から20年が経つ。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]  
2016年12月発行 第213号  
編集発行: 水戸芸術館音楽部門  
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130  
E-MAIL [ankmr@arttowermito.or.jp](mailto:ankmr@arttowermito.or.jp)  
URL <http://arttowermito.or.jp/>  
編集: 水戸芸術館音楽部門(五十音順) / 石井亮子  
大峠百合香 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃  
デザイン・印刷所: 山三印刷株式会社